



研究者名※	壬生 里巳	学位※	博士(文学)
所属※	文学部 日本文学科	職名※	助教
連絡先	smibu@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/7000023439		
研究分野※	人文学、文学、日本文学		
研究キーワード※	近世文学		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等			
受賞歴			

研究領域	近世文学、紀行文学	(SDGs)
研究テーマ※	熊阪台州とその結社「白雲館」の文芸活動に関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 江戸中期から後期にかけて、陸奥国伊達郡高子村の豪農・熊阪台州は、『西遊紀行』『信達歌』『永慕編』を続々と刊行する傍ら、地元の子弟の教育活動にも熱心に取り組んでいる。また、福島に住みつつも台州の交遊は江戸の大田南畝らを中心に、唐橋公や西洞院公ら公卿をや忍藩・阿部正識、伊勢長島藩・増山正賢といった大名、赤松滄州、山根泰徳ら儒者と広く行われた。 本研究は、彼の文芸活動の中でも、『信達歌』や『永慕編』中の「高子二十境詩」などの詩文を通して、どのように名所づくりがどのようになされ、また地元や他の地域からどのようにとらえられたのかを明らかにし、地域づくりの意義を明らかにすることを目的とする。 【応用例、研究の展望】 今日、江戸時代の熊阪家によって作られた「高子二十境」を整備・保全し、地域の活性化につなげようという活動がすでに始まっている。その際、江戸時代における名所化の試みがどのようになされたかを明らかにすることで、その景観の文化的な位置づけを明確にできる。また、このような試みが他の地域でもなされていたのかを調査していくことは、地域デザインのあり方を考えることにもなる。	
本研究関連 特許・論文等	・壬生里巳「熊阪台州編『永慕編』と『永慕後編』—「二十境詩」の比較を中心に—」『日本女子大学紀要 文学部』70号、2021年3月、p.1～8。 ・壬生里巳「熊阪台州と『信達歌』」『和漢比較文学』41号、2008年8月、p.17～32。	
共同研究・外部機関 との連携への期待		